

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

改めて「聴く」ということ

中部学院大学宗教主事 高木 総平

ラジオ放送を担当させていただき、録音を終え、改めて思ったことがあります。当然ですが、ラジオの向こうにいる方々は、私どもの話を通して、御言葉を「聴いて」くださっています。この聴くということは、私たちの原点だということです。旧約聖書の信仰者、預言者たちも神様の声を聴きました。イエスの時代も会堂では旧約聖書が読まれ、それを人々が聴いたのです。人々はイエスがなされたことを目の当たりにしたこともありますが、何よりイエスの言葉に心を傾けたのです。目に見えるものを否定するつもりはありませんが、見るよりも聴く方がもっと集中力が要ります。見ることも意識しないと耳には入ってきません。聖書研究は文字を目で追って、学び、考えます。このような取り組みも大切であると考えますが、「聴く」という原点を忘れてはなりません。

「聴く」ということに関して、私は臨床心理士でもありますので、「いのちの電話」や「カウンセリングの講座」の講師として、相談やカウンセリングの基本の基本として、「聴く」ことの重要性を訴え続けてきました。これらの場合、聴くことは、相談を寄せられる方（カウンセリングではクライアント）に対して、一人の人間として尊重するという意味を意味していますし、聴くことにより、その悩みや苦しみに共感し、その気持ちを受容することになってきます。それは聴くことが最大の援助になるという臨床心理学の考えに基づいています。要するに両者の間に深い交流が生じるということです。

もちろん、カウンセリングにおいて聴くことと

神様の言葉を聴くこととは、大きな次元の違いがあるのは言うまでもありません。聴くことにより、神様を支えるということはありません。むしろこちらが支えられるのです。でも重なる面もあると思うのです。まずは聴くということには集中力があるということ、心を使うということです。カウンセリングでは、クライアントのことをより知ること、このことは知的に知ることではなく、聴いて、カウンセラーが心を使い、深い交流が生じるということなのです。神様に聴くということもそういうことでありましょう。

もちろん教会でも御言葉、説教を聴きます。教会の場合は、共同体の中で聴くということになります。その教会では、同時に多くの見えるものが目に飛び込んできますし、時にいろいろな雑音も聞こえてきます。見える教会においては当然なことでありましょうが、教会の共同体において、御心聴くということも大切なことです。

信仰は教会共同体を通して養われ、培われるのが基本でありましょう。でも健康等の関係、様々な事情で教会に集うことのできない方々もいらっしゃいます。また教会共同体にあっても、この私がひとりの人格として神の前に立たされ、御言葉を聴くことは原点であります。この「キリストへの時間」に加わらせていただき、改めて「聴く」ということを考えさせられました。



「迷える一人を捜される神」

名古屋教会牧師 田口博之

「あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言うておくと、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

マタイによる福音書 18章 12～14節

聖書を読んで気づかされることは、神様はいつも小さな者の味方であるということです。神がイスラエルという民を選ばれたこともそうです。旧約聖書、申命記 7章 7節には「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに」とあります。神様はいつも小さな者を愛し、慈しんでおられるのです。

イエス様は、「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい」と言われました。「これらの小さな者」とは、子どもや女性、障がい者などです。イエス様の時代、これら小さな者たちは価値のない存在と見なされており、数に数えられることもありませんでした。聖書に 5千人への配食の奇跡が記されていますが、そこでは成人男子の数だけが数えられているのです。

子どもに目を留めたとき、日本においても、少子化となった今でこそ、子どもは宝だと言われます。しかし昔は、労働力として役に立たず知恵もない、それでも飲み食いさせなければならぬ子どもは、やっかいな存在として見なされていたこともあったのではないのでしょうか。

しかし、イエス様の子どもへのまなざしには特別なものがありました。弟子たちに「心を入れ替えて子どもようにならなければ、決して天の国

に入ることはできない」と言われました。子どもばかりでなく、貧しい人や悲しむ人、社会的に小さくされた人々を愛されたのです。そして、「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」と告げました。「一人でも」と言われたことが大事です。一人くらいであれば仕方ない、などとは言われなかったのです。

このことを教えるために、イエス様は迷い出た羊のたとえを語られました。「あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言うておくと、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう」と。

この話自体は難しくありません。でも、小さな者が一人でも滅びることを放っておかれぬ神の思いに心を寄せなければ、分かりやすいとはいえないのではないのでしょうか。どうして、たった一匹の迷い出た羊を捜しに行くのか、迷い出たほうが悪い、自業自得ではないか。それよりも、残りの九十九匹をどう考えているのか、一匹を捜している間に残された九十九匹の羊が迷い出たしまったらどうするのか。そのようなことのほうが、考えやすいのではないのでしょうか。

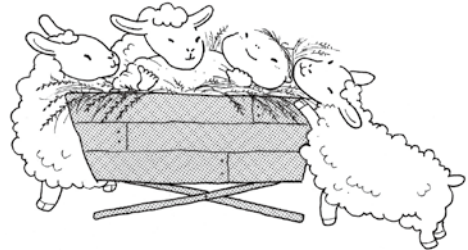
でも、それは自分が九十九匹の側にいると思うから、そのように考えてしまうのです。ほんとうにそうでしょうか。人間は誰でも迷いやすい存在です。幼いころ、迷子になって泣きべそをかいた経験は、誰にでもあるのではないのでしょうか。そのとき親は必死になって捜した筈です。捜すことに理由はありません。ただその子を愛しているからです。いとおいしいからです。迷った子は、今どんな悲しい思いをしているのか、その子を思うと放っておけないからです。

たとえ話の羊飼いは、イエス様を示しています。迷い出た一匹が他の九十九匹より特別な価値のある羊だから捜したのではありません。その時は迷わずにいた九十九匹のうちの一匹が迷い出たとしても、同じように捜されるのです。

今の社会において、小さな者は顧みられなくなっています。かつて社会的な地位のあった人も、お年をめして一線から身を引けば、誰も集まってこなくなります。誰もが小さくされるのです。けれどもイエスさまは、いつも小さな一人に目を留めてくださるのです。聖書が証言する神様は、迷い

出た一人、小さくされた一人を放っておかれません。神は愛だからです。「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」からです。

(2017 年 9 月 10 日放送分)



『仕事場便り』

◇「キリストへの時間」の放送開始は 1952 年 10 月ですが、当時ありました数多くの福音伝道のラジオ放送は、現在、継続中は讃美歌 515 番の曲で始まるこの CBC をキー局のこの「キリストへの時間」のみになりました。これは皆様のお祈りとご支援の証です。関わらせていただいている一人として、心より感謝いたします。

◇うれしいことがあります。それは、ご理解くださった方々、ご支援くださった方々の信仰の証として、ご高齢になられ後々のために施設で生活されつつ、福音の宣教の一翼を担ってくださっていることです。献金をくださる方もおられます。日々の生活が、周りの方々にキリスト者であることが、ごく自然に信仰者の香として伝わり、聖書が欲しいと申し出る方がおられて、私のところに、新約聖書の贈呈を申し出てくださる方が数名居られます。最初は遠慮がちに 1 冊でもと控え目ですが、今は周りに人に頼られましたと数冊単位になりました。聖書をお渡しすることは、伝道の原点です。神様は、その働きを聖書頒布という形で、お一人、お一人の賜物を、素晴らしい形でお用いくださっていることに、「地の果てまでも宣べ伝えよ」の召しに応答されていることを、良きお手本と感謝しています。

◇「キリストへの時間」の放送時の後枠に、新約聖書の贈呈を案内させていただいたのは、何時からであったか、記憶にないくらい以前からですが、それを可能にしたのは、東海地区におられた「ギデオン協会」のメンバーが匿名を条件で、「個人贈呈」として購入したものを、継続して寄贈してくださったからです。そのような方々も今は召されましても、また、新たな協力者が与えられ、これからは「新約聖書贈呈」の後枠と共に、皆様にお届けできるようになりました。本当に感謝です。

◇一時、減少しておりました応答者数も増加しています。感謝なことに、継続してのお手紙交換者がそれに比例するかのようになりました。メールによる対応も多く、力ない者ですが対応させていただいております。説教者、アナウンサー、CBC の関係者のそれぞれの働きの結果です。一枚のはがきの一行のみの、「新約聖書希望」の言葉に、新たな献身の思いで、その任に当たらせていただきます。どうぞ、祈りの隅で結構です。お加え下さり、お支えください。

2017 年 1 月 2 0 日

「キリストへの時間」協力委員・フォローアップ担当 長村秀勝



「キリストへの時間」放送予定 2018年1月～6月

1月		4月	
7日	杉本美由紀 (名古屋キリスト教社会館チャプレン)	1日	岩淵正樹 (日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会牧師)
14日	杉本美由紀 (名古屋キリスト教社会館チャプレン)	8日	岩淵正樹 (日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会牧師)
21日	山田麻衣子 (日本基督教団名古屋北教会牧師)	15日	畑 雅乃 (日本基督教団金城教会牧師)
28日	山田麻衣子 (日本基督教団名古屋北教会牧師)	22日	畑 雅乃 (日本基督教団金城教会牧師)
		29日	田口博之 (日本基督教団名古屋教会牧師)
2月		5月	
4日	小室尚子 (金城学院宗教総主事)	6日	久保田証一 (日本キリスト改革派尾張旭教会牧師)
11日	小室尚子 (金城学院宗教総主事)	13日	久保田証一 (日本キリスト改革派尾張旭教会牧師)
18日	落合建仁 (金城学院大学宗教主事)	20日	相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)
25日	落合建仁 (金城学院大学宗教主事)	27日	相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)
3月		6月	
4日	橋谷英徳 (日本キリスト改革派関キリスト教会牧師)	3日	沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
11日	橋谷英徳 (日本キリスト改革派関キリスト教会牧師)	10日	沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
18日	遠山信和 (日本キリスト改革派静岡教会牧師)	17日	後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)
25日	遠山信和 (日本キリスト改革派静岡教会牧師)	24日	後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)

温故知新 —「キリストへの時間」が始まった1952年は—

「主な出来事」

- 4月 1日 琉球中央政府発足 (主席比嘉秀平)
 4月 28日 講和条約・日米安全保障条約発効・GHQ廃止。
 天満基督傳道館より「聖書研究の友」1月号
 刊行 編集兼発行人 小川三男師
 5月 1日 血のメーデー事件
 8月 6日 「アサヒグラフ」で原爆被害写真を初公開。
 8月 13日 日本が国際復興開発銀行 (世界銀行) と国際
 通貨基金 (IMF) に加盟

「物 価」

- 大卒初任給 (公務員) 6,500円 高卒初任給 (公務員) 4,600円
 牛乳: 13円 かけそば: 17円 ラーメン: 25円
 喫茶店 (コーヒー): 30円 銭湯: 12円 週刊誌: 25円
 新聞購読料: 280円 映画館: 120円

この年1人当たりの国民所得が、ほぼ戦前の水準に回復したとい
 います。1ドルはまだ360円の時代です。

10月27日「キリストへの時間」放送開始

「キリストへの時間」協力委員会

連絡先 〒465-0065 名古屋市名東区梅森坂 4-101-22-207 TEL・FAX 052-893-9585
 E-mail: osamura@kind.ocn.ne.jp

編集発行人 田口 博之 郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送